



2021 4/1

事務局:〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-19-6 TEL.03-3984-2396 FAX.03-3984-2264
狭山研修センター:〒350-1315 埼玉県狭山市北入曽695-1 TEL.04-2968-4721 FAX.04-2950-7706
滝沢研修センター:〒377-1611 群馬県吾妻郡滝沢村千原 TEL.0279-96-1015 FAX.0279-96-1015

2面・3面 巡回公演だより/制作だより/令和3年度巡回公演時期・作品/
「はだかの王様」配信公演/新作紹介
「トン吉とカラス」/園からの声
4面 日本芸術文化振興会助成事業/J
KA補助事業/クラウドファンディング 御礼 ほか

http://www.suginoko.org/

E-mail: support@suginoko.org

人生百年時代に向けて

理事長 大場 隆志



二〇二五年にわが国の六十五歳以上の人口は約三七〇〇万人となり、内閣府「高齢者社会白書」によると、そのうち七〇〇万人が認知症を患い、社会保障費が増加する一方、人口減少から税収減となり、財政逼迫が深刻化すると言われています。

二〇二二年から公的年金の受給開始年齢を七十歳から七十五歳に引き上げられる背景は、このような厳しい現実があることが要因と言えます。そこで国や自治体は、公助だけでは成り立たない社会保障を、元気な高齢者を支えることで社会参加させることにより、公助から共助・自助・互助に変えようとしています。つまり、社会教育や生涯学習を含む地域ヘルスケアサービスの役割を民間や行政以外の組織が担う時代がくるということです。

自助・互助・共助・公助は以下のように分類されます。
一、自助とは、他人の力によらず、当事者である自分(本人)の力だけで課題を解決すること。
二、互助とは、当事者の周囲にいる近い人が手をさしのべること。家族や友人、ご近所などの方たちが、自発的にかかわること。
三、共助とは、地域や市民レベルでの支え合いのこと。非営利団体などによる事業やボランティア

ア活動。つまりシステム化された支援活動のことを指します。
四、公助とは、行政による支援のこと。さまざまな公的なサービスにより、個人では解決できない生活の諸問題に対処することです。

このような取り組みを背景に、人生百年時代を迎えると言われておりますが、これからの人生のステージは、教育↓仕事↓引退という順番にステップをたどる一斉行進も終わりとなり、エイジ(年齢)とステージが一致しない時代へと変化していくことになると考えられます。今は、ある人が大学生と聞けば、だいたいの年齢が分かかります。ある人が部長クラスの管理職だと言われれば、おおよその年齢は察しがつきますし、今日まで歩んできた道のりもほぼ推測できます。しかし人生百年時代では、マルチステージの人生が当たり前になり、「エイジ(年齢)」と「ステージ」がイコールとならないため、「大学生」という情報だけでは、年齢を推測することはできなくなります。新たに出現するステージは、ますます年齢とは関係がなくなっていくこととなります。
このことは、今後の教育、企業のマーケティング、法律などにも非常に大きな意味をもつことになるといえます。
人生がマルチステージ化するこ

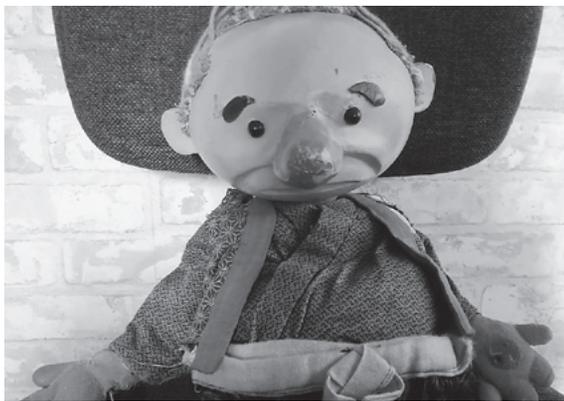
とによって人々にとっての余暇のあり方が変わり、生涯を通して新しいライフステージを築くための投資や新しいスキルを身につけるための投資に費やせる時間が増えます。従来は余暇時間として遊びやリラクゼーションなどのために用いていた時間を、人生が長くなれば、余暇は、新しいステージに向けて自分を再創造するための投資の時間を使うことになるでしょう。

巡回公演だより

このつぎなあとに班

忙しいのも大変ですが、上演がほとんどなくとも、いつ上演があっても大丈夫なように保つのも大変でした。上演そのものは少なくとも、もしかしたら、こんなにも芝居と向き合ったのは初めてかもしれせん。

観劇会のみならずイベントを中止せざるをえなかったご時世において、子どもたちが飢えているのを感じました。ナマの舞台でなければ子どもたちに届けられないものがあることを、例年以上に感じました。
今はコロナのためにこのような



状況になっているが、子どもがナマの舞台に触れる機会は少しずつ減ってきました。僕らもずっと考えてきたけれど、より考える機会

すぎのこ芸術文化振興会は、演育を、子どもの表現力やコミュニケーション力、想像力を養う教育として提唱しているのですが、人生百年時

代の未来を見据えると、これからのAI時代を生きるすべての世代の人のための教育に役に立つのではないかと思っております。また、芸術文化活動も生涯を通じて自分の再創造のために取り組む方も増えてくると思っております。
日本の少子高齢化社会における取り組みは、大都市、地方を問わない共通の課題です。
地域包括ヘルスケアサービスと

コンパクトシティ、スマートシティなどの考え方に基づく街の再生や地方創生は、日本の課題を解決するという点だけでなく、これから日本が世界に先駆けて創造していく新しい未来の社会モデルとなります。

これからも私たち公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会の職員一人一人がこれからの未来に求められる価値を創造し提供していきたいと思っております。
そして、世の中すべての人に大きな喜びを提供するという夢をこれからも形にしていきたいと思っておりますので、これからも何とぞ、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い致します。

はだかの王様 班

かもしれない。
希望は必ずある。どんな時も希望を見失ってはならない。

昨年度は大変な時期にもかかわらず、「はだかの王様」を見ていただき、大変嬉しく思っています。子どもたちは相変わらず元気と活力に溢れていて、いつも元気な声と笑顔で挨拶してくれます。私たちも元気をもらおうとともに、子どもたちの素直な気持ちを見習わなきゃ、という気持ちになります。「はだかの王様」というお話は、子どもたちのような、素直さや正直な気持ちを失い、大人になって



生まれた見栄などが重なり大変な失敗をしてしまうお話です。

このお話を通じて、私自身もそして大人になった皆さんも、もう一度子どもの頃にあった素直さや正直な気持ちを、少しでも出せるようになったらいいな、と思う今日この頃です。

また、元気な子どもたちと先生方に会えるのを楽しみに、日々過ごしてまいりますので、人形劇が見たいと思われましたら、呼んでいただけたら幸いです。

おむすびころりん班

おむすびころりん班は、昨年度は、ほかの班同様とても少ない上演数でした。その中でも上演できた時は、子どもたちのエネルギーをもらい楽しい上演ができました。今年度はこの作品がより多くの子どもたちの心に届くように、新しく「おむすびころりん」を演じるメンバーに旧メンバーの思いも託

し、引き継いでいきたいと思ひます。

今年はいつもととは違う気持ちで、桜の季節を迎えられた方々も少なくないと思ひます。また、東日本大震災から10年。この10年の間には多くの災害や悲しい出来事もありました。

私たちは人形劇を通じて元氣や温かな思いなどを届けて、少しでもみなさんが観てよかった、元氣が出た、と思つていただける作品を創れるよう頑張ります。



三まいのおふだ班

「三まいのおふだ」は、この春、幕を閉じます。この四年間、全国の子どもたちに観ていただき、ありがとうございます。本当に、子どもたちに支えられて続けられたと思つています。

つい先日の公演でも、小坊主とやまんばの追いかけっこの場面で興奮して鼻血を出してしまった子がいたとか。いや、こんなこと初めてのこと、特別な日となりました。



り、時には後ずさりしたり、大人である自分自身の「自立」ということさえ、あやふやなものに感じたりします。たとえば実際、この作品を創る時、大きな不安と迷いはありましたが、でも自力というより、子どもたちへの思いはもろろん、仲間の他の力によって見えてくるようになりまし。それでも、私は上演での関わりの中にあつて、子どもたちの屈託のない伸びやかなたくましさを感じられ、踏み出そう、やり続けようと思つたことはまぎれもない実感です。小坊主と同じです。「やまんばなんてこわくない。いないぞ。ウンだあ」、私自身の「自立」の不安と恐れは、実は子どもたちの姿にゆだねられていたのかもしれない。人形と子どもとの狭間で人に寄り添う仕事ができ、本当に良かったと。

思えば、新作として創る時、子どもの「自立」ということを大きな主題にしました。私たち大人でさえ、ある程度の知識や経験があつても不安や迷いはあるもの。ましてや、これからが未知の子どもたちにとって想像を超えて不安、恐れみたいなものはきつとあるんだらうなあ……。大きな意味で「自立」ってなんだろうなあ。

「三まいのおふだ」の具体的なテーマは約束を守ること。「自立」と「約束」、共に大事だけれど、両立はなかなか難しい。「自立」は永遠の問題として、でも子どもたちとの約束は守ろうと思ひます。

制作をゆるめる

ご入園、ご入学おめでとうござひます。今年度の入園式は、どこで、どのようにされますか。4月時点でコロナはどのくらい

収まっているのでしょうか。いずれにしても、昨年度は、一年中コロナに悩まされ、先生方も、子どもたちも、不安だたいへんな日々を過ごされていたと思ひます。

令和3年度巡回公演時期・作品			
時期	5月～7月	8月～12月	1月～3月
北海道	トン吉とカラス		
東北		おむすびころりん	
関東	このつぎなあに		12月 トン吉とカラス
信越北陸	おむすびころりん～8月		
東海畿			おむすびころりん
中国		はだかの王様	
四国			はだかの王様
九州	はだかの王様	トン吉とカラス	このつぎなあに
		未定	おむすびころりん
沖縄		このつぎなあに(12月)	

もぐもぐ劇場班

首都圏中心に巡回しているもぐもぐ劇場は、昨年度、コロナの影響もあり、10数回の公演しかありませんでした。

しかし、上演した園の子どもたちは、いつものように、目をキラキラさせて観てくれました。本当にありがとうございます。一日も早くコロナが収束し、日常が戻ることを願つております。いつご要望があつても、うかがえるように準備しておりますので、



今年度もよろしくお願ひいたします。

「はだかの王様」 配信公演

2月24日(水) 長崎県佐世保市の藤原幼稚園にて、「はだかの王様」の配信公演を行いました。毎年、秋に見ていただいていたのですが、コロナ禍で、山口園長先生より、ご提案をいただきました。

人形劇は観たい。楽しみに待っている子どもたちのこと、劇団のこと、感染防止のこと、様々考えさせていただいてお話でしたので、気持ちはかなり前のめりになりました。しかし、どうやって？ SNSは大の苦手なので、ずっと二の足をふんでいました。

劇団内で配信のテストをしたり、DVDを作成した劇団員に相談したり、インターネットでいろいろと調べたりしましたが、結局は先生からご提案をいただいた、YouTubeの限定配信と、ZOOMでのごあいさつというところに落ち着きました。

ZOOMが開いた瞬間、子ども

たちの嬉しそうな笑顔と歓声に胸が熱くなりました。

スクリーンに映した「はだかの王様」を真剣に見入り、笑ったり、声をあげたりする子どもたちの元気な姿が見られ、終了後に感想を聞くこともできて、とても楽しい時間を過ごすことができました。

打ち合わせの時間にも、当日のスクリーンへの映り方、子どもたちの様子などのように見えるかまでのシミュレーションをしていただきました。ありがとうございます。

公演料も、保護者会様からご協力いただき、感謝にたえません。ありがとうございます。

いつもは親子観劇だったので、密を避けるため、当日は子どもたちだけで見ていただきました。その後1週間ほどURLを公開させていただきました。お家でもお楽しみいただけただけでしょうが。なんとか年長児さんが卒園する



前にごらんいただけて、本当によかったです。

人形劇は、ナマが一番だと思えます。しかし、配信という方法で、こんなに子どもたちに喜んでもらえたということは、この先の希望につながりました。ほんとうにありがとうございます。

(制作担当 榎本 千里)

新作紹介

「トン吉とカラス」

今回の新作は「トン吉とカラス」という作品です。

最近のすぎのこの人形は、いわゆる棒遣い人形が多かったのですが、今回は、昔ながらの両手遣いのギニョール人形を遣います。このギニョール人形は両手を使って操作し、なおかつ人形の裾、今回はもんぺの部分になります

ですが、そこを手や腕で払



いつつ動かすことによって、実際に足で歩いているかのような表現を行います。

「トン吉とカラス」スタッフ

- 原作 / 小澤 鉄造
- 脚本 / 浅野 茜子
- 演出 / 小杉 正繁
- 人形美術 / 吉川 潔
- 宣伝美術 / 高左右 篤子
- 舞台デザイン / 榎本 均
- 制作 / 太田 令

すぎのこも、感染防止対策を取りながら、例年の2割ほどの公演をさせていただきました。ハイリスクの中、受け入れてくださった園、先生方、保護者の方々、観てくれた子どもたちに、あらためてお礼を申し上げます。毎朝の検温、機材の消毒、換気をしながらの公演で、現場の俳優たちも、いつもと違った緊張感の中、公演をしてまいりました。いつもと変わらぬ子どもたちの笑顔に、どれほど癒されたかわかりません。ありがとうございます。

そして、厳しいご意見をくださった先生に感謝申し上げます。真摯に受け止め、今後の公演を行っていききたいと思っております。ありがとうございます。

クラウドファンディングやご寄付、DVDのお買い上げ、様々なご協力もいただきまして、誠にありがとうございます。

コロナ禍にあっても「どの子にもナマの舞台の感動を！」の精神を忘れずに、子どもたちの輝く笑顔を絶やさぬよう、配信事業も含め、様々な公演形態を模索していきたいと思っております。

お会いできる日を楽しみにしています。

(榎本 千里)

袁からの声

めぐみ幼稚園(山口県関市)

スタッフの皆さん、とても明るく、親しみやすさを感じました。子どもたちは、当日楽しんだこと

はもちろんです。一か月たった今でも「おいしいおむすび、こーろころ」と口ずさみ、手遊びしている姿を見ます。参加しながら観ることができたことも、よかったです。感じていきます。

須恵保育園(山口県山陽小野田市)

コロナ禍で、様々な行事が自粛になる中、子どもたちにとって、楽しい行事ができました。十分な

感染対策もされ、安心でした。

三まいのおふだ

■香取市立佐原幼稚園(千葉県香取市) コロナ禍の中、遠いところまで来てくださり、ありがとうございます。

子どもたちは、物語に引き込まれて、一喜一憂していました。

■みつる認定こども園(沖縄県糸満市) 「三まいのおふだ」の内容がよく、舞台のセットも場面ごとに変わって、子どもたちは想像しやすく、楽しく観ることができました。観劇のあとも「楽しかったー」と話す子が多かったです。

はだかの王様

■認定こども園日章(宮崎県小林市)

コロナ禍の中、観劇をするか考えましたが、距離をとった配置、マウスシールドなどの感染対策があり、園側とも併せて予防しながら観ることができました。洋物は初めてに近かったので、クリスマスシーズンにはよかったです。

■阿久根めぐみこども園(鹿児島県阿久根市)

今回もとても素敵でした。小さ

しろこ保育園

■松島第一幼稚園(宮城県) 2回公演の配慮ありがとうございます。

人形劇の世界に引き込まれていきました。貴重な経験だと思えます。心に何か残るメッセージ、温かさ、子どもたちの心に届いていると思います。

新桜ヶ丘保育園(神奈川県横浜市)

今回「このつぎなあに」をすすめていただけて、初めて見せていただきました。

作品内容も演技もとてもよかったです。来年度もお願いしたいと思っています。

独立行政法人 日本芸術文化振興会 助成事業



昨年より実施していた日本芸術文化振興会の芸術文化振興基金による助成事業、令和2年度「おむすびころりん全国巡回公演」を完了しました。

当初の事業計画では、5月上旬より九州での公演を開始する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の流行により緊急事態宣言が発出され、しばらくの間上演が叶わず、公演ができなくなったのは7月の下旬でした。例年と比較し、公演日数・公演回



数を減少しました。思いをこめて制作した作品を、子どもたちにお届けすることができないことがとても悔しい気持ちがいっぱいでしたが、色々な制約や条件下の中で、対策を講じて観劇をしてくださった幼稚園・保育園さまには心より感謝申し上げます。

引き続き「おむすびころりん」の公演は全国に巡回いたします。今年度は1学期に北陸、2学期に東北、3学期に近畿・九州での公演を予定しております。

感染症流行前の日常を取り戻すにはもう少し時間がかかりそうですが、感染対策を講じて上演を行ってまいりたいと思えますので、何とぞよろしくお願いいたします。

数共に大幅に減少しました。

思いをこめて制作した作品を、子どもたちにお届けすることができないことがとても悔しい気持ちがいっぱいでしたが、色々な制約や条件下の中で、対策を講じて観劇をしてくださった幼稚園・保育園さまには心より感謝申し上げます。

公益財団法人 JKA補助事業

公益財団法人JKAの令和2年度「オートレースの補助事業」として実施しておりました「心を育てる演育ワークショップ」を完了いたしました。

本事業につきまして、新型コロナウイルス感染症流行の影響を受け、当初予定しておりました実施回数を大幅に下回る回数での実



施となりました。しながら、実施させていただきました。また、公益財団法人JKA様より補助をいただき、多くの演育教材を製作することができました。

また、公益財団法人JKA様より補助をいただき、多くの演育教材を製作することができました。これらを資源とし、今後も引き続きより効果的な内容、そしてより多くの園や子どもたちに「演育」をお届けし、日本、そして世界の未来を担う子どもたちの、コミュニケーション力や表現力を育むお

P 新人賞2020 最終選考に残る

パペットとパフォーマンスを審査する「P新人賞2020」に、なんと劇団すぎのこの作品が最終選考まで進みました。タイトルは「神様の器」。普段とは違う、どちらかといえば大人向けの作品です。いつも子どもたちへ向けた人形劇をしている我々が、大人を、しかも芸術面のプロたちを相手に自分たちの表現力を競い合うという、劇団すぎのこではめったにない挑



戦となりました。結果は、残念ながら受賞はならず。しかし、こうして人形劇と向き合った時間は今までに濃厚で、「表現者としての自分」を高める、とても貴重な経験となりました。そうしてまたひとつ成長した俳優たちが、子どもたちの笑顔のために再び動き出します。今年度も、劇団すぎのこの更なる躍進をご期待ください。(吉田 薫)

活動記録 (令和3年1月~3月)

- 1/6 第三学期全国巡回公演開始
- 2/10 第19回定例理事会
- 2/26 於・当公益財団事務所 第6回臨時評議員会
- 3/21 於・当公益財団事務所 昔話読み聞かせ・人形劇フェスティバル
- 3/31 於・ソプラテイク狭山 令和2年度事業計画書並びに収支予算書を内閣府に提出

新企画 十マの人形と映像とのコラボ人形劇

今年度、すぎのこでは、新たな試みとして、背景に映像を駆使した人形劇をお届けする予定です。登場するのは、子どもたちの大好きな、「くまのがっこう」のルル・ロコ。題名は「ルルとロコの宝さがし」です。ワクワク・ドキドキ、さあ~どんな人形劇になるか、お楽しみに!

劇団すぎのこにご支援をお願いいたします

困難で不安定な世の中であっても、文化活動の灯を消さないために私共は活動を継続し、そしてより良い公演を目指して、子どもたちの豊かで優しい心を育む活動を続けたいと思っています。どうか皆様のご理解とご賛同をいただき、ご支援をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

- 〈寄付金の目的〉 財団の運営資金及び巡回公演事業に充当されます。
- 〈寄付のご金額〉 個人 1口 5,000円 法人 1口 10,000円
- 〈税制上の優遇処置〉 税額控除額の算出式 個人が支出した寄付金について 確定申告時に税額控除制度の適用を選択した場合、以下の算式により算出された額が、所得税額から控除されます。 (税額控除対象寄付金(※1)-2,000円)×40%=控除対象額(※2)←この額が所得税額から控除されます。 ※1 税額控除対象法人(すぎのこ)への寄附金額 注: 寄付金支出額が、総所得金額等の40%に相当する金額を超える場合には、40%に相当する額が税額控除対象寄付金となります。 ※2 控除対象額は、所得税額の25%を限度とします。 確定申告時に領収書と証明書の写しを添付してください。
- 〈払込方法〉 下記の口座に任意口数をお振込みください。 さらばし銀行 池袋支店 普通 0336101 名義 公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会 理事長 大場 隆志 ザイ) スギノコゲイジユツパンカシン コウカイ リジチョウ オオバ タカシ

御礼 クラウドファンディング

令和2年10月から令和3年1月にかけて、巡回公演活動継続のためのクラウドファンディングを実施いたしました。幼稚園さまや保育園さま、個人の方々など、たくさんの方々より温かなご支援を頂戴いたしましたことを、心より御礼申し上げます。

同時に、すぎのこへの激励のお言葉を多数いただきました。このような温かい皆様のお気持ちが、今後私共が活動していくための糧となります。

多くの方々よりご支援を頂戴いただきましたが、一定金額以上のご支援をいただいた皆様のお名前をご紹介します。この度の皆様のご支援とご声援に厚く感謝申し上げます。

- ご芳名
- あけぼの幼稚園 様
- 猪川邦子 様
- 上田桂太郎 様
- 健伸幼稚園 様
- 鈴木達也 様
- 長谷川恵子 様
- 六甲藤原台幼稚園 様
- 他、匿名希望の皆様

(順不同)